

1. 意見書の背景

これまでの1995年、98年の訪米調査を通じたベンチャー育成のための提言  
⇒最低資本金特例、ストック・オプション制度、エンジェル税制等の導入に結実

制度充実の一方で、進まない起業  
(廃業率>開業率、国際的に見て低い起業意識)

問題意識 **制度を活かすために必要なものは?**

2. クラスターの競争力と「人」

3度目の訪米調査と国内調査…「クラスター」に着目

連携がもたらすクラスターの競争力

ある特定分野に属し、相互に関連した企業・機関からなる地理的に近接した集団

↓  
クラスターを形成する各主体の相互補完が競争力の源に

起業に必要なのは「人」の要因…個人の起業意識や人のつながり

米国西海岸－民間ネットワークを核とした連携  
米国東海岸－自治体を核とした連携

クラスターを通じた活発な連携・人材交流が起業風土に影響

日本でも進行中のクラスター形成…両者のよさを活かし、  
日本型のクラスタリング・システムへの昇華へ

3. 必要な取組

(1) 起業家を支える人的ネットワークの充実

- ・失敗の軽減やアイデア発掘につながる起業家同士や専門家を結ぶ人的ネットワークの充実
- ・起業成功者が後進起業家の相談者・指導者として全人的支援を行うメンタリング制度の普及  
(新産業・新事業委員会にも「メンター研究会」を設置し、日本型メンターのあり方を検討)
- ・ネットワークから生まれる成功体験を通じた起業意識醸成  
→ネットワークを媒体に成功までの道筋を明確化、学校を通じた起業家教育のフォローアップ
- ・地方における専門家(法曹、会計、IPO支援等)の一層の充実
- ・発達を見せているWebネットワーク上のコミュニティを通じた情報の交換、共有  
→情報量の大きい直接交流、地理的・時間的制約を超えたWebネットワーク上の交流が生む相乗効果

(2) 研究から製品化までのイノベーションサイクルの構築

- ・過度な自前主義から脱却し、大学・研究機関－ベンチャー企業－大企業間の特性を活かしたオープンなイノベーションシステム構築  
→研究成果・機能評価・市場ニーズのフィードバックを伴った、同時並行的な技術開発関係の確立
- ・先端的学術研究の導入による革新技術の効率的な活用
- ・大学・研究機関－ベンチャー企業－大企業間の人的流動性システムの構築  
→スピノフに加え、復帰を容易にすることで外部経験の一層の利活用へ

起業家とそれを支える「人材」

競争力ある「技術」

3種類の連携を通じ  
新産業・新事業の創造へ

産業を育む「場」

(3) クラスターの各構成機関が強みを活かした起業環境形成

<政府・自治体 ～起業環境と理念の長期的醸成～>

- ・公的機関の特長を活かした長期的視野での計画策定
- ・マッチングの場の提供や教育を通じた起業観の醸成等、物心両面の起業環境の充実
- ・商品調達によるベンチャー企業の経営支援(調達予算内へのベンチャー枠設定等)
- ・税制優遇などを通じた民間資金による研究を促す寄付文化の醸成

<ベンチャーキャピタル(VC) ～投資判断力を備えた地元密着ベンチャーキャピタル～>

- ・投資眼と地域性を両立した独立系地域VCへの期待←地域の枠を広く捉えることで投資先と収益性を確保
- ・役員派遣や専門家・取引先斡旋、などの投資後のケア充実
- ・投資判断としての技術評価機関の活用

<大学・研究機関 ～より一層の産学連携関係～>

- ・研究機関のオープン利用などを通じた産学連携の一層の強化による資源の効率利用と研究経験の蓄積
- ・地元企業への技術指導等による先端技術の地元定着
- ・クラスター内での大学間連携、若手研究者の視野を広げるカリキュラム構成、理系人材を対象にした起業家教育の充実
- ・起業事例の収集による成功・失敗要因の研究

<大企業 ～自社の埋没資産(人、モノ、ノウハウ)の発掘～>

- ・イノベーションの芽となる大企業の知的財産の活用
- ・ベンチャーへの人材供給(起業家、経営メンバー、メンター等)→特に今後定年を迎える団塊世代の活用に期待
- ・アイデアや人材を結び付ける大企業のネットワーク資源の活用
- ・ベンチャーの強みである早期経営判断に対応した大企業における経営判断の早期化